

福島大教育	高橋キヨ子
聖和学園短大	○雁部 愛
福島県立会津短大	甲野藤ウタ

1. 被服構成学の立場から、軀幹部形態の成長による変化に関して、さきに福島市における小・中学生について報告したが、今回はこれにつづいて高校生・大学生・一般成人男女について同様に観察を試みた。

2. 資料は前報と同じく、1967年に実施した福島市における高校生・大学生・一般成人（22～30歳）男女合計746名の計測結果で、そのうち胸囲・胴囲・腰囲・胸部横径・胴部横径・腰部横径・胸部矢状径・胴部矢状径・腰部矢状径及び胸部矢状径／胸部横径・胴部矢状径／胴部横径・腰部矢状径／腰部横径・「B.—W.」・「H.—W.」の14項目を研究項目とした。

3. a) 実測値9項目は、高校生・大学生では男女とも加齢に従い漸増の傾向を示す。そのうち、男子高校生の胸囲・胴囲の増加量は比較的多い。一般成人は、男女とも大学生に比し劣っている。男子は、胸部と胴部では一般に女子より優位であるが、胸部矢状径と腰部の3項目においては女子が優れる。

b) 胸部・胴部・腰部における横径に対する矢状径の比率は、年齢による著しい変化はみられない。性差は、胸部・胴部では女子が常に優位で有意差がみられる。

「B.—W.」・「H.—W.」は、女子が加齢に従い増大の傾向を示し、男子より優位である。即ち、男子は、胸部・胴部が殊に優れ、女子は、腰部が優れ胴くびれのつよい体型を示している。